

## 野草利用による粗飼料の低コスト生産 第2報 メヒシバ等の野草の利用実態調査

東 政則・\* 畠山澄雄 (宮崎県農業大学校・\* 宮崎県畜産試験場)

Masanori HIGASHI and Sumio HATAKEYAMA : Production of Low-Cost Roughage  
by Utilization of Wild Grasses

### 2. A Survey of Farmers Utilizing Wild Grasses, such as Crabgrass, *Digitaria abscondens*

粗飼料の低コスト生産に有望な野草を、利用する技術の確立を進めているが、今回農家におけるこのような野草の利用実態調査を行った。

#### 1. 方法

調査期間は'87年3月20～25日で、調査した農家は中間・西都・国富・高鍋の4つの農業改良普及所管内の11戸である。農家選定は農業改良普及員に依頼し、11戸のうち酪農家が10戸、和牛繁殖農家が1戸であった。

調査は聞き取りで行い、調査項目は、主な作目、経営規模、野草利用地の面積、野草の種類と優占度、野草に対する施肥、野草の刈取期と刈取熟期、野草の利用法、野草と飼料作物との連続利用の有無、飼料作物の栽培法(ブラウ耕の有無、ロータリー耕の回数と耕深、播種期、播種量、施肥、刈取期、刈取熟期)、野草利用を始めた動機、野草利用の利点と欠点である。

#### 2. 結果及び考察

調査した農家はすべて専業農家で、成雌牛頭数は酪農家が平均25頭、和牛農家は18頭であった。これに対する野草利用地の面積は平均3.3haであった。飼料作物収穫後に不耕起で連続して野草を利用している農家は9戸で、その飼料作物はイタリアンライグラス又はイタリアンとえん麦の混播(I(+O)と略)、トウモロコシ(Cと略)であり、その組合せになる主な野草は、I(+O)の場合がメヒシバ(Mと略)またはノビエ(Nと略)、キシウズメノヒエ(Kと略)で、Cの場合はMであった。野草の優占度については、Kは極めて高いが、MまたはNの場合はMとNが主要野草として拮抗的に優占しているケースが多かった(第1表)。

野草に対する施肥は、I(+O)～MまたはN、I～Kの場合には比較的多かったが、その他の野草については無または微の施肥量であった。一方、連続利用における飼料作物に対する施肥は野草に対するものよりも多く、野草が施肥効果以上の収量を上げていたことから、野草収量の一部は飼料作物の残肥によっているものと思われた。

野草の刈取期と刈取熟期については、MとNの場合はほとんどが2回刈りで1番草は7月・出穂前が多く2番草は9月・成熟期が多かった。C跡のMの場合は全戸1回刈りで、だいたい10月・出穂期～成熟期であった。このC～Mの3戸はMの後にさらにI(+O)の作付を行っていたが、この3作体系が1年間で完結できるかは問題である。I跡のKの場合は、1番草が6月で最終刈りの10月上旬までに4～5回刈取り、刈取熟期はすべて出穂期であった。I(+O)の最終刈りは、I(+O)～Nの場

合には20～30%のNの混在があり、I～Kの場合もKの混在があるとのことであった。飼料作物の最終刈り後に施肥を行う場合はあるが、その他の作業は全戸行われていなかった。

野草の利用方法は、チガヤ(Tと略)が青刈・乾草、Mが青刈・乾草・サイレージ、Nが乾草・サイレージ、Kが青刈・サイレージであった。

1ヵ月当たり野草生草収量の最も高いのはK、最も低いのはTであった(第1表)。

飼料作物の栽培法で、ブラウ耕を行っているのはC播種時に行う1戸だけで、他はすべてロータリー耕であった。ロータリー耕の耕深と回数は、C播種時のブラウ耕をしない農家は深くかつ回数も4～5回であったが、その他は浅～中程度の耕深で1～2回行う程度であった。

野草利用の動機は、T・M・Nについては「昔から行っているから」というものが最も多く、同じくT・M・Nについて「現在も満足しこれからも継続したい」とするものが10戸中9戸であり、残りの1戸は「C跡のMは繁茂して次の1播種の支障になる」とするものであった。Mの問題点で最も多かったのは「倒伏しやすい」ことだった(6戸中3戸)。一方Nは倒伏に強い長所があった(2戸中全戸)。Kについては、「湿田にトラクタが入れるようになる大きな長所があるが、サイレージ品質が不良のため継続には消極的」とのことであった。

第1表 野草の優占度と収量性

飼料作物と連続利用の有無	連続利用体系	農家	野草の優占度(%)			立毛期間(月間)	野草生草収量(10a)	10a当り月草量(10a)
			1番草	2番草	3番草			
無	永年野草地(T)	HM	90	100	—	12	3	0.25
		MM	50	60	—	12	5	0.42
有	I(+O)～M	TN	60①	60①	—	5	6	1.20
		TS	70～80②	90②	100	4	6	1.50
		MK	90～	90～	—	3	5	1.67
	I(+O)～N	TK	80～90③	80～90③	—	4	4	1.00
		SH	67③	67③	—	4	5.5	1.38
	I～K	NK	100(6月～最終刈り)		—	5	10	2.00
	C～M～I(+O)	MY	50②	—	—	2	1.5	0.75
		HN	100	—	—	2.5	2	0.80
SH		100	—	—	2	1.2	0.60	

注) ①: M以外は主に暖地型牧草やT。  
②: M " 主に N。  
③: N " 主に M。